

七条中学校だより7月12号

京都市立七条中学校

令和8年7月15日

発行:校長 林 秀雄

1学期の終わりが、未来の自分をつくる

1学期も残りわずかとなりました。この期間、皆さんは学習や部活動、学校行事、日々の生活の中で、自分の力を試し、仲間と支え合いながら過ごしてきました。うまくいったこともあれば、思うようにいかなかったこともあったでしょう。しかし、その一つ一つの経験こそが、七条中学校が大切にしている「プロセス」であり、皆さんの成長を支える財産です。

学期の終わりは、ただ日付が変わるだけの区切りではありません。どのように1学期を締めくくるかによって、夏休みの過ごし方も2学期のスタートも変わります。そして、その積み重ねが、数か月後、一年後の自分を形づくっていきます。では、七条中の生徒として、この1学期をどのように締めくくればよいのでしょうか。

まず大切にしてほしいのは、「振り返り」です。できたことを三つ、できなかったことを一つ挙げ、その理由を考えてみましょう。例えば、「提出物を期限内に出せた」「英語の単語テストで平均点を超えた」「部活動の基礎練習を毎日続けた」などです。一方で、「数学の計算ミスが減らなかった」という人もいるでしょう。しかし大切なのは、できなかったことを悔やむのではなく、その原因を考えることです。「焦って解いていた」「途中式を書いていなかった」など理由が見えれば、次の改善につながります。自分を正しく振り返ることのできる人は、必ず次の成長につなげることができます。三者懇談では、自分の成長を自分の言葉で語ってほしいと思います。

次に大切にしたいのは、「感謝」です。友達や部活動の仲間、家族、先生方など、自分を支えてくれた人に感謝の気持ちを伝えてみましょう。「ノートを見せてくれてありがとう」「大会前に励ましてくれてありがとう」「毎日お弁当を作ってくれてありがとう」そんな一言が、自分自身の心も温かくしてくれます。これまで紹介してきた「徳を積む」ということも、こうした感謝の実践から始まります。

そして夏休みは、「挑戦」の季節です。「毎日10分だけ机に向かう」「読書を1冊読み切る」「英単語を1日5個覚える」そんな小さな挑戦で十分です。大切なのは続けることです。続ける力は、大きな財産になります。

また、この時期は人間関係を見直す機会でもあります。「この前は言い過ぎてごめん。」その一言で関係が良くなることがあります。SNSで誤解があれば、直接話すことも大切です。自分も相手も大切にできる関係を築いてほしいと思います。

さらに、夏休みを有意義に過ごすためには生活習慣を整えることも欠かせません。「起床時間を決めること・夜遅くまでスマートフォンを使わないこと・十分な睡眠をとること」こうした当たり前のことが、心と体の健康を支えます。

今、部活動では夏季大会や発表の時期を迎えています。結果に注目が集まりますが、本当に価値があるのは結果だけではありません。「毎日の練習・仲間との励まし合い・チームを支えた経験」そのすべてが皆さんの人格を育てています。仲間とともに積み重ねた時間は、一生の財産です。努力は結果以上に、人を成長させる力を持っています。

SNS、人間関係、学習、生活習慣に共通することがあります。それは、「未来の自分を守る」という視点です。「誰かを傷つける言葉を書かない」「課題を後回しにしない」「今日の行動が2学期の自分を助けるか考える」未来の自分が喜ぶ選択を積み重ねてほしいと思います。未来は突然つくられるものではなく、今日の小さな選択の積み重ねによってつくられていくものです。

1学期の終わりだからこそ考えてほしいことがあります。それは、「区切りには人を成長させる力がある」ということです。人は毎日の生活の中では、自分の変化に気付きにくいものです。しかし、学期末という節目があるからこそ、立ち止まって自分を見つめ直すことができます。4月の自分と今の自分を比べてみてください。学力だけでなく、あいさつや責任感、仲間との関わり方など、少しずつ成長した自分がいるはずです。その成長に気づき、自信をもつことも大切な振り返りです。1学期の終わりは、2学期の始まりを準備する時間でもあります。「机の中を整理する・ノートを見返す・夏休みの目標を書き出す」こうした小さな行動が新しいスタートを支えてくれます。

七条中学校が大切にしている「プロセス」も、このような節目を丁寧に過ごすことで育まれていきます。皆さんがどのような終わり方を選ぶかは自由です。しかし、その選択は未来の自分につながっています。

1学期の締めくくりを、どうか丁寧に。七条中学校の生徒として、自分らしく、そして誇りをもって、よい1学期の終わり方を選んでください。